

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	(仮称)多賀スマートインター下り線アクセス整備											
計画の期間	令和02年度～令和04年度(3年間)											
交付対象	多賀町											
計画の目標	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年8月に(仮称)多賀スマートインター整備が事業化となり、町道四ッ屋胡宮線は(仮称)多賀スマートインター下り線と国道307号線とを接続する1次アクセス町道で、多賀町内にある工業団地や湖東圏域内にある工場へのアクセス強化を図ることで産業振興に寄与するとともに、周辺地域の防災機能の向上や広域的な医療体制の充実、観光振興等に寄与する重要な路線であり(仮称)多賀スマートインター完成までに大型車などが安全に通行できるアクセス道路整備を行う。 令和6年度に彦根が主会場として国民スポーツ大会が予定されており、前年に開催されるプレ大会に間に合うことを目標としている。 											
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	124	A	124	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0%

番号	計画の成果目標(定量的指標)				定量的指標の現況値及び目標値		
	定量的指標の定義及び算定式				当初現況値	中間目標値	最終目標値
					R2末	R3末	R4末
1	現状の町道四ッ屋胡宮線について、N3からN5に舗装構成を変える 舗装構成の変更 舗装構成変更率 = 町道整備事業完了距離 / 町道整備事業実施距離				8%	42%	100%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靭化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																					
基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）		全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況					
		一體的に実施することにより期待される効果																			
		備考																			
道路事業	A01-001	道路	一般	多賀町	直接	多賀町	市町村道	改築	(仮称)多賀スマートインターフェース整備	改築、舗装等	多賀町					124	-				
																124					

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

社会資本整備事後評価として、多賀町地域整備課内にて評価を実施。

事後評価の実施時期

令和7年12月

公表の方法

多賀町のホームページにて公表

事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況

舗装設計便覧より、N5交通を満足する舗装構成へ変更し、あらゆる車両の通行に対し、満足する路面状況へ変えられた。スマートインター供用後には、大幅な交通量の増加がみられ、大きな役割を果たしている。

定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）

多賀スマートインター下り線と国道307号線とを結ぶアクセス町道として、町内にある工業団地や湖東圏域にある工場へのアクセス強化や周辺道路の渋滞緩和が図られ、物流に対しても大きな役割を果たした。また、令和7年度に彦根で開催された国民スポーツ大会においても、周辺道路の渋滞緩和など大きな役割を果たした。

特記事項（今後の方針等）

年間を通じ多賀スマートインター下り線のアクセスの向上とともに、周辺地域の防災機能や広域的な医療体制の充実、観光振興等に寄与する重要路線のため、引き続き適切な維持管理（除雪等含む）に努める。

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	町道四ツ屋胡宮線の舗装構成の変更		
	最終目標値 100%		
	最終実績値 100%		